

修士論文(要旨)
2014年1月

中国の大学の日本事情教育における教師の役割
—中国 S 大学の調査から—

指導 宮副ウォン裕子 教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
212J3007
金蘭

目次

| | | |
|------------|----------------------------|----|
| 第1章 | はじめに | 1 |
| 1.1 | 研究背景 | 1 |
| 1.2 | 研究目的 | 2 |
| 第2章 | 先行研究 | 4 |
| 2.1 | 「日本事情」の定義に関する先行研究 | 4 |
| 2.2 | 中国の大学における日本事情教育の現状 | 5 |
| 2.3 | 教師の役割に関する先行研究 | 5 |
| 第3章 | 調査概要 | 8 |
| 3.1 | S大学の概要 | 8 |
| 3.2 | S大学日本語専攻学部生へのアンケート調査 | 9 |
| 3.3 | 学習者と教師へのインタビュー調査 | 10 |
| 第4章 | 学習者アンケート調査の結果と分析 | 12 |
| 4.1 | 2年生へのアンケート調査の結果と分析 | 12 |
| 4.2 | 3年生へのアンケート調査の結果と分析 | 15 |
| 4.3 | 2年生アンケート結果と3年生アンケート結果の比較分析 | 19 |
| 第5章 | インタビュー調査の結果と分析 | 21 |
| 5.1 | 教師インタビューの結果と分析 | 21 |
| 5.1.1 | 担当教師のインタビューから見る「日本事情」 | 21 |
| 5.1.2 | 他科目担当の教師が思うS大学の社会文化教育 | 25 |
| 5.1.3 | 教師インタビューのまとめ | 27 |
| 5.2 | 学習者インタビューの結果と分析 | 27 |
| 5.2.1 | 2年生へのインタビュー調査の結果と分析 | 27 |
| 5.2.2 | 3年生へのインタビュー調査の結果と分析 | 32 |
| 5.2.3 | 学習者インタビューのまとめ | 37 |
| 第6章 | 総合的考察 | 42 |
| 6.1 | 教師と学習者の認識のずれについて | 42 |
| 6.2 | 教師の役割 | 46 |
| 6.3 | 提案 | 49 |
| 第7章 | おわりに | 51 |
| 7.1 | まとめ | 51 |
| 7.2 | 今後の課題 | 52 |

謝辞

参考文献

巻末資料

【キーワード:「日本事情」、教師の役割、意識のずれ、学習者主体、メディア・リテラシー】

要旨

中国は世界で日本語学習者が最も多い国である。国際交流基金が 2012 年に実施した『海外の日本語教育の現状—2012 年度日本語教育機関調査より』によると、中国の日本語学習者は 100 万人を突破し、世界1位となった。教育段階別学習者数から見ると、中等教育の学習者数が一番多い世界全体の状況とは異なり、中国の主な学習者層は高等教育であり、大学進学率の上昇が高い伸びを支えている。また、中国の大学の大多数は日本語の言語能力だけではなく日本に関する一般的な基本知識、日本社会に関する全般的な事情を日本語学習者に知ってもらうために「日本事情」(中国語の科目名「日本概況」という科目を開設している。

日本事情教育に関する研究はこれまで盛んになされてきたものの、そのほとんどが 2000 年以前のものである。元々、外国人留学生が日本という国をよく理解するための教科として設けられた科目であったが、21 世紀に入り、日本社会についての事柄を知識として覚えさせる知識偏重の教育への批判と、コミュニケーション活動能力の育成を目指す「個の文化」(細川 2000)の提唱と相まって、「日本事情」という科目名自体が日本の教育機関から徐々にその姿を消していった。その結果、日本事情教育に関する研究も激減した。しかし、中国の大学で「日本事情」という科目が大学正規課程の一科目として存在し続ける以上、「日本事情」科目の実施状況の調査や教育実践上の改善点などの研究の意義は大いにあると思われる。

中国における日本事情教育に関する研究も少なくはないが、その多くがカリキュラム上の問題点、授業内容への指摘などに止まり、「日本事情」科目において重要な存在である教師の役割に関する研究の蓄積は少ない。本研究は、中国 S 大学の日本事情教育現場に注目し、学習者の「日本事情」の授業および教師に対する期待と、学習者と教師の意識のずれからあぶり出される日本事情教育における教師に望まれる役割を探ることを目的とした。これらの研究目的を実現するため、S 大学外国語学部日本語学科に在籍する日本語学習者に対するアンケート調査、および学習者と教師に対するインタビュー調査を実施した。

学習者アンケート調査からは、学習者が期待する授業像と実際受けた授業の間にはギャップがあり、一致していないことが明らかになり、自由記述を通して学習者が思う中国人教師と日本人教師のそれぞれのメリットとデメリットも把握することができた。

教師と学習者のインタビュー調査からは、S 大学の「日本事情」の授業について教師と学習者が共通して「教科書が古い」、「授業時間数が足りない」という認識を持っており、大きな現実問題として捉えていることが分かった。また、教師と学習者の間に存在する認識のずれも浮かびあがってきた。それは主に、授業内容・目的、授業活動、授業内使用言語、評価に関するずれであった。これらの認識のずれについて理論的に考察を行った結果、「日本事情」の授業において重要な存在である教師の役割変化が必要であることが示唆された。

現状調査の結果から、従来、S 大学における「日本事情」授業の教師が担ってきたのは、「専門家」「教授者」「計画者」「学習管理者」の役割であったと考えられる。それらの役割に加えて、学習者がより自己決定的に学習を営んでいける力を養成するためには、学習者を絶えず励まし、支持する「ファシリテーター」、日本に関する情報を獲得するための多様な情報源を提供する「情報提供者」、学習のプロセスを共有する「共同学習者」としての役割を担う必要があることが明らかになった。

また、「日本事情」の教師として、中国人教師は日本の社会文化に関する専門性の構築が強く期待され、日本人教師は学習者との良好な関係作りが重要であることが示唆された。加えて、母語話者教師と非母語話者教師の枠を越え、中国人教師と日本人教師が有益な連携と協力を深めることは、中国の日本語教育の改善を図る上で必要不可欠であると考えられる。

本研究では、中国の日本事情教育現場にいる日本語教師と日本語学習者たちの「日本事情」の授業に対する語りから、S 大学の日本事情教育の現状把握と、学習者の授業および教師に対する期待を調査分析し、教師が担うべき役割は何かを明らかにした。これは、中国の大学における日本事情教育の改善を図ることに一助となる結果であると言える。また、日本語教育の一環である日本事情教育における学習者主体の授業設計とメディア・リテラシーを取り入れた授業活動の必要性も提案した。

今後は、他の大学教育機関を含むより広範な量的・質的調査をすることと、メディア・リテラシーを取り入れた学習者主体の授業を設計し、実践・評価することを課題としたい。

参考文献

- 阿部洋子・横山紀子(1991)「海外日本語教師長期研修の課題:外国人日本語教師の利点を生かした教授法を求めて」『日本語国際センター紀要』1, 53-74
- 石井恵理子(1996)「非母語話者教師の役割」『日本語学』15巻2号, 87-94
- 牛窪隆太(2005)「日本語教育における学習者主体——日本語話者としての主体性に注目して」『リテラシーズ 1』, 87-94 くろしお出版
- 梅田康子(2005)「学習者の自律性を重視した日本語教育コースにおける教師の役割—学部留学生に対する自律学習コース展開の可能性を探る」『言語と文化』12, 39, 59-77
- 川上郁雄(1999)「『日本事情』教育における文化の問題」『21世紀の「日本事情」』創刊号 くろしお出版
- 国際交流基金(2012)『海外の日本語教育の現状—2012年度日本語教育機関調査より』くろしお出版
- 斎藤ひろみ(1996)「日本語学習者と教師のビリーフス:自律的学習にかかわるビリーフスの調査を通して」『言語文化と日本語教育』12, 58-69
- 宿久高・周異夫(2007)「日本語教育の中の文学と文化—中国における日本語教育の現状と課題」『日本語教育』133, 28-32 日本語教育学会
- 鈴木みどり(2013)『最新 Study Guide メディア・リテラシー』入門編 リベルタ出版
- ズー トアイ トゥー(2010)「『日本事情』教育のあり方に関する一考察-ベトナムの大学の場合」桜美林大学大学院言語教育研究科日本語教育専攻 修士論文
- 譚建川(2006)「中国における『日本事情』教育の現状」日本言語文化研究会 2, 59-81
- トムソン木下千尋(2002)「海外の日本語教育における日本文化の学習を促すコースと教師の役割」『21世紀の「日本事情」—日本語教育から文化リテラシーへ』4, 4-18
- 橋本敬司(1994)「日本語教育における『日本事情』—初級日本語教材における『日本事情』」『広島大学留学生日本語教育』6, 39-54
- 橋本敬司(1998)「創造する日本事情」『広島大学留学生センター紀要』8, 27-39
- 長谷川恒雄(1999)「『日本事情』—その歴史的展開」『21世紀の「日本事情」—日本語教育から文化リテラシーへ』創刊号 くろしお出版
- パトリシア・A・クラントン(2010)入江直子, 豊田千代子, 三輪建二訳『おとなの学びを拓く—自己決定と意識変容を目指して—』第6版 鳳書房
(原著:Cranton, A Patricia, “Working with Adult Learners”, 1992.)
- 平畑奈美(2008)「アジアにおける母語話者日本語教師の新たな役割—母語話者性と日本人性の視点から」『国際交流基金日本語教育論集世界の日本語教育』18, 1-19
- 細川英雄(2000)「崩壊する『日本事情』—ことばと文化の統合をめざして」『21世紀の「日本事情」—日本語教育から文化リテラシーへ』第2号, 16-27
- 水内宏・李潤華(2006)「『日本事情』教育における新視点と教材開発」『千葉大学教育学部研究紀要』第54巻, 55-62
- 文部科学省(1962)「外国人留学生の一般教育等履修の特例について」『文部省令第二十一号』